

5 : CIGR (国際農業工学会) 2000年記念世界大会の企画と実施

A : 計画書 (日本学術会議共催申請書から抜粋)

1 . 会議の名称

和 文 名 : CIGR (国際農業工学会) 2000年記念世界大会

英 文 名 : THE XIV MEMORIAL CIGR WORLD CONGRESS 2000

2 . 主 催 : 日本学術会議 (予定)、CIGR、日本農業工学会 (参加 11 学協会 : 農業土木学会、農業機械学会、農業施設学会、日本農業気象学会、農業電化協会、日本農作業学会、日本生物環境調節学会、農村計画学会、日本植物工場学会、CELSS学会、農業情報利用研究会)

3 . 開催時期 : 平成 12 年 11 月 28 日 (火) ~ 12 月 1 日 (金) (4 日間)

4 . 開催場所 : 筑波大学大学会館 (茨城県つくば市)

5 . 会議の性格と目的

本国際会議はCIGRが実施する国際会議であり、21世紀の農業工学をシステムと情報に関するハイテクノロジーと途上国を含めた世界農業との調和を探索しつつ、展望することを目的とするものである。

国際農業工学会は、食糧生産に関わる工学技術の発展・普及を目的とする世界規模の国際学会であり、日本学術会議が加入している。1930年に創立大会をベルギーのリージュで開催し、以後大会をスペインのマドリッド、イタリアのローマと継続させ、最近では4年毎に世界大会 (World Congress) を世界各国で開催している。1998年には第13回大会をモロッコで、また2002年にはアメリカ合衆国で、それぞれ開催する予定である。ところが、平成7年に日本学術会議が、CIGRに加入して以来、我が国の農業工学に対して、他のCIGR加入各国の関心が急速に高まりつつある。

CIGRは、西暦2000年に創立70周年の輝かしい節目を迎える。世界的に食糧不足が云々される21世紀の農業を農業工学面から展望し、技術課題を検討する絶好の機会でもある。このような考えから、CIGRは、特別な記念世界大会を我が国で開催することを決めた。

6 . 日本開催の経緯と意義

(1) 日本開催にいたる経緯

我が国の工業水準を反映し、農業工学分野における国際学会への貢献は以前から著しいものがあり、アジア、アフリカ、中南米等の途上国は無論のこと、欧米の先進国からも注目されていた。特に中山間地における灌漑・排水に関わる技術や水田農業に於ける機械化等は、我が国独特の技術として世界から高い評価を得ている。また、最近の施設園芸や植物工場のシステム制御や自動化・ロボット化においても、我が国の情報化の潮流との関係で世界の強い関心を集めている。

第42回CIGR参加国総会 (General Assembly)が、1993年5月26日東京大学山上会館で行われ、CIGRの会長、副会長、事務局長をはじめ役員一同が東京に集まった。この会議に於いて、来るべき西暦2000年がCIGRの創立70周年にあたり、新しい世紀を迎える区切りの年でもあることから、我が国で記念世界大会を開催することが論議され、実現に向けて検討することとなった。また会議の後には我が国の農業工学の現状を視察され、より一層、我が国の農業工学に強い関心が寄せられた。

1996年9月21日に開催のCIGR理事会及び翌22日開催の総会に於いて、2000年に我が国で、創立70周年記念の世界大会が開催されることが決定した。

なお、本国際会議の開催にあたっては、日本農業工学会が受け皿となり、数年前から準備を進めてきたが、平成9年6月24日に開催の同理事会において運営委員会幹事会を正式に発足させ、会議の骨格を構築してきた。

なお、この会議の開催状況は、次のとおりとなっている。

回	開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者数
1	1930	リエージュ(ベルギー)	8	50	0
8	1974	フレボホフ(オランダ)	35	400	3
9	1979	イーストランシング(米国)	36	500	3
10	1984	ブダペスト(ハンガリー)	40	650	3
11	1989	ダブリン(アイルランド)	47	550	7
12	1994	ミラノ(イタリア)	53	700	22

(2) 意義

ア. 農業工学は、農業生産に関する基盤、作業、機械化、環境改善等の工学技術を研究する学問であり、主な研究テーマは、「土と水」、「建築物、環境の改善」、「作業機械」、「電力とエネルギー」、「生産管理、労働科学」、「農産物処理」等の技術分野に分類される。

イ. 今回の会議では「生産のシステム化と情報利用による21世紀の農業工学 ハイテクノロジーの導入による、変貌する地球環境下に於ける食糧増産」をメインテーマに、21世紀とともに普及が著しいと予想される情報化技術とシステム制御を如何にして途上国を含む世界の農業に導入していくかを特別セッションを軸に上記6技術分野との相互関連で検討が行われることになっており、その成果は、食糧危機を解決する有効なブレイクスルーになるものと期待される。

ウ. CIGR国際会議の今回の日本開催はやや遅きに失した感があるが、世界の研究者・技術者が一堂に会して新世紀の農業工学に関して討議を行い、さらに現地見学等を通して、世界各国と我が国の研究者・技術者とが交流することは、我が国におけるこの面の優れた研究状況、新しい手法の開発状況などを多面的に国際的に認識してもらう絶好の機会でもある。我が国が工業生産技術と同様に食料生産技術においても国際的に大いに貢献出来る状況を理解してもらうことは、我が国のこの方面に関する科学技術の研究・開発を、さらに一段と飛躍的な発展へと導く契機になるものと確信する。

7. 会議計画の概要

(1) 会議の構成

全体会議(参加国総会)、特別講演、特別セッション、一般講演セッション、ポスターセッション、学術展示セッション、企業展示、エクスカージョン

(2) 主要題目

(2)-1 メインテーマ

農業生産のシステム化と情報利用による21世紀の農業工学 ハイテクノロジーの導入による変貌する地球環境下に於ける食糧増産

(2)-2 特別講演(プレナリー)

A-1 人口増加に伴う資源(食糧生産)の展望(仮題:1時間)L. Clarke (FAO)

A-2 食糧生産と情報利用に関わる諸問題(仮題:1時間)N. Sigrimis (Agric.Univ.Athens)

(2)-3 特別セッション(3課題並列)

B 水田農業

C ライフサポートシステム(植物工場 & 畜産工場)

D インフォーマティクス(農業情報利用)、(講演4×2(各20分))

(2)-4 一般講演セッション

CIGRの常設技術委員会 (S-1~S-6) への応募論文等

(3) 日程

(3)-1: 学術関連

日付	午前の部	午後の部	夜の部
11/28		14:00-18:00 レジストレーション	18:00-20:00 ウェルカムパーティ
11/29	9:30-10:00 開会式 10:30-12:30 特別講演プレナリー 人口増加と資源(Clarke) 食糧生産と情報(Sigrimis)	14:00-17:00 特別セッション B: 水田農業(8課題) C: ライフサポート(8課題) D: 情報「IT」(8課題)	
11/30	10:00-12:00 一般講演セッション	13:00-15:00 一般講演セッション 15:30-17:30 ポスターセッション 学術展示セッション 企業展示 総会 (General Assembly)	18:00-20:00 バンケット
12/1	8:50-10:50, 11:00-13:00 一般講演セッション 11:00-13:00 「IT」立ち上げパネル会議	14:00-16:00 一般講演セッション 16:15-17:45 記念行事、記念講演(Abeels) 閉会式	

(3)-2: オプショナル・ツアー (省略)

(4) 会議使用語: 英語、同時通訳なし。

(5) 参加予定国: オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブラジル、フルガリア、カナダ、中国、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、インド、インドネシア、イラン、イスラエル、イタリア、日本、ケニア、韓国、マレーシア、モロッコ、オランダ、ノルウェー、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ロシア、サウジアラビア、シンガポール、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、台湾、タイ、トルコ、連合王国、及びアメリカ合衆国。以上 40ヶ国・1地域。

(6) 参加予定者数

国内	300名	(外同伴者	30名)
国外	300名	(外同伴者	70名)
計	600名	(外同伴者	100名)

(7) 予算			
収入			
参加料小計(600名)			20,350,000
会議登録料	事前登録	当日登録	小計
特別参加登録料	30,000 × 50	35,000 × 20	2,200,000
普通参加登録料	40,000 × 320	45,000 × 30	14,150,000
割引(学生, 60歳以上)料	35,000 × 60	40,000 × 20	2,900,000
同伴者参加登録料	10,000 × 80	15,000 × 20	1,100,000
公式晩餐会参加費	5,000円 × 400名		2,000,000
各学会負担金			9,000,000
募金協力(個人)			1,000,000
国費(学術会議: 希望額)			5,000,000*
	合計		37,350,000
支出			
準備			16,585,000
旅行代理店手数料		2,035,000	
事務局経費		2,500,000	
(準備補助(アルバイト))		1,000,000)	
(コピー代等)		1,500,000)	
募金		500,000	
旅費(準備会側)		2,200,000	
旅費(学術会議側)		1,600,000*	
外国郵送料		1,000,000*	
印刷費		6,750,000	
(1 st Announcement		300,000)	
(Poster(和文、英文)		250,000)	
(2 nd Announcement		800,000)	
(Tentative Program		600,000)	
(Final Program + Participants list		800,000)	
(Abstract		1,300,000)	
(CD-ROM		2,700,000)	
会議運営等			12,900,000
レセプション		1,500,000	
公式晩餐会		4,000,000	
コーヒ代		1,000,000	
参加者への小物(Bag etc.)		2,000,000	
会場費		2,000,000*	
会議補助(アルバイト)		2,000,000	
旅費(学術会議外国人滞在費等)		400,000*	
事後			5,600,000
報告書等		3,000,000	
CIGR上納金		1,600,000	
CIGR表彰		1,000,000	
(メダル外国(100,000 × 2))		200,000)	
(盾-国内(10,000 × (36+10)))		460,000)	
(その他)		340,000)	
予備費			2,265,000
合計			37,350,000

8. その他

(1) 大会運営委員会 (1997年12月9日発足：33名)

委員長 橋本 康 (日本農業工学会長、愛媛大学農学部教授)
副委員長 瀬尾康久 (プログラム小委員会委員長、東京大学大学院農学生命科学科教授)
副委員長 宮崎 毅 (募金委員会委員長、東京大学大学院農学生命科学科教授)
副委員長 前川孝昭 (開催地委員長、筑波大学農林工学系教授)
委員 中川昭一郎 (名誉顧問)
委員 佐野文彦 (名誉顧問)
委員 長堀金造 (日本学術会議会員、同第6部長、東京農業大学総合研究所客員教授)
委員 田淵俊雄 (日本学術会議会員)
委員 木谷 収 (日本学術会議会員、日本大学生物資源科学部教授)
委員 中野政詩 (日本学術会議会員、神戸大学農学部教授)
委員 高倉 直 (日本学術会議会員、長崎大学環境科学部教授)
委員 富田正彦 (日本学術会議会員、宇都宮大学農学部教授)
委員 中村良太 (日本農業工学会副会長、(財)日本農業土木総合研究所技術顧問)
委員 長島守正 (日本農業工学会副会長、日本大学生物資源科学部教授)
委員 白石英彦 (日本農業工学会事務局長、(社)農業土木学会専務理事)
委員 古在豊樹 (日本農業工学会理事、千葉大学園芸学部教授)
委員 岡本嗣男 (日本農業工学会理事、東京大学大学院農学生命科学科教授)
委員 世良田和寛 (日本農業工学会理事、日本大学生物資源科学部教授)
委員 相賀一郎 (日本農業工学会理事、大阪府立大学学長)
委員 真木太一 (日本農業工学会理事、愛媛大学農学部教授)
委員 安富六郎 (日本農業工学会監事、東京農業大学農学部教授)
委員 長坂陽一 (日本農業工学会監事、東京電力(株))
委員 和田完司 (日本農業工学会事務局)
委員 佐藤洋平 (幹事会委員、東京大学大学院農学生命科学科教授)
委員 蔵田憲次 (プログラム小委員会副委員長、東京大学大学院農学生命科学科教授)
委員 島田正志 (プログラム小委員会副委員長、東京大学大学院農学生命科学科助教授)
委員 山崎 稔 (募金委員会副委員長、近畿大学生物理工学部教授)
委員 高辻正基 (募金委員会副委員長、東海大学開発工学部教授)
委員 仁科弘重 (幹事会代表幹事、愛媛大学農学部教授)
委員 大下誠一 (プログラム小委員会代表幹事、東京大学大学院農学生命科学科助教授)
委員 後藤英司 (幹事会幹事、東京大学大学院農学生命科学科助教授)
委員 佐竹隆顕 (幹事会幹事、筑波大学農林工学系助教授)
委員 林 真紀夫 (募金委員会代表幹事、東海大学開発工学部教授)

B：日本学術会議共催に伴う組織委員会 (1999年11月10日発足：36名)

委員長：木谷 収、副委員長：橋本 康、顧問：佐野文彦、中川昭一郎、委員：瀬尾康久、宮崎 毅、前川孝昭、長堀金造、田淵俊雄、中野政詩、高倉 直、富田正彦、山崎耕宇、中村良太、長島守正、白石英彦、古在豊樹、岡本嗣男、世良田和寛、相賀一郎、真木太一、塩光輝、安富六郎、長坂陽一、和田完司、佐藤洋平、蔵田憲次、田中忠次、山崎 稔、高辻正基、大政謙次
総務幹事：仁科弘重、幹事：後藤英司、佐竹隆顕、大下誠一、林 真紀夫

C：国際プログラム委員会 (1999年9月14日承認：23 + 12 = 35名)

委員長：瀬尾康久、副委員長：蔵田憲次、田中忠次 (東京大学)、委員：伊藤和彦、干場信司、原 道宏、町田武美、坂井直樹、二宮正士、芋生憲司、長野敏英、島田正志、伊藤信孝、三野 徹、梅田幹雄、笈田 昭、村瀬治比古、橋口公一、森本哲夫、田中俊一郎、幹事：大下誠一 (代表)、川越義則、鳥居 徹、B.Cheze(F), M.R.Altisent(ES), F.W.Bekker-Arkema(USA), E.H. Bourarach(Mo), D.De Wrachien(I), A. Kamaruddin(Indonesia), T. Ruoma(Finland), G.Papdakis(Gr), S.Pedersen(Denmark), L.S.Pereira(Portugal), A. Ramdani(Mo), J. Voermans(NL)

D：開催地委員会 (1999年9月14日承認：32名)

委員長：前川孝昭、幹事：佐竹隆顕、委員：安部征雄、山口智治、木村俊範、清水直人、瀬能誠之、張 振亜、久島 繁、院多本華夫、小池正之、余田 章、野口良造、瀬川具弘、長谷川英夫、佐藤政良、塩沢 昌、足立泰久、真木太一、杜 明遠、後藤慎吉、長谷川三喜、池口厚男、河野澄夫、五十部誠一郎、大谷敏郎、佐瀬勘紀、奥島里美、藤本正也、森山英樹、小綿寿司、大浦正伸